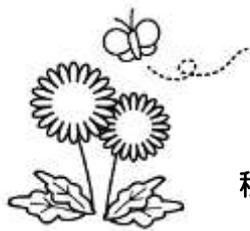


### 春のお彼岸



冬の寒さで凝り固まった身体を  
穏やかな陽だまりで溶かしているような  
心地よい日が続きます。

香りふくよかな梅から始まり、桜、桃と花々が一齐に咲き始める華やかな季節、  
皆様いかがお過ごしでしょうか。

人の心も何やら浮ついてしまう今月、春のお彼岸を迎えます。

今年は3月20日(月)の春分の日を中日とし、  
前後7日間3月17日~23日がお彼岸となります。

お彼岸は、私達仏教徒にとって、  
「日頃忙しくてなかなか仏道精進できないものの、  
せめてこの一週間は仏様の教えを守り、心の修行をしましょう」という期間です。  
この7日間、自分なりに仏様の教えに沿った生活を送り 善いおこないを積むことで、  
ご先祖様への功德とします。



春のお彼岸に取り組みやすい修行として、  
ここではいつも「無財の七施」をご提案しています。

- ①やさしいまなざし
- ②にこやかな顔
- ③思いやりのある言葉
- ④思いやりのある行い
- ⑤思いやりのある心くばり
- ⑥ゆずりあいの心
- ⑦気持ちのよいおもてなし

今回はまさに布施行を一心に行う女の子のお話、  
眞山美保作、演出の「泥かぶら」をご紹介します。

昔、あまりの醜さゆえに「泥かぶら」と罵られ  
村のはじき者になっていた少女がいました。  
少女は心がすさみ、日ごとに粗野で荒々しい子になっていきました。  
その日もいつものように、訳もなくいじめられ、あざけられて  
少女が自暴自棄になっているところに一人の旅法師が通りかかり  
美しくなる方法を教えてください。



その方法とは、  
自分の顔を恥じないこと  
どんな時にもっこり笑うこと  
人の身になって思うこと

この三つを守れば村一番の美人になれる、と教えて法師は去ります。

少女は美しくなりたい一心で、涙ぐましい努力を始め  
重病人のために危険な崖をよじのぼり薬草を取ってきたり  
人手の足りない家に山の枯柴を拾い集めて届けたり  
人の役に立つ喜びに満たされていきます。  
いつしか「美しくありたい」という思いも忘れ果て、  
最後には親の借金がゆえに人買いに売られる羽目になった娘の  
身代わりとなり、村をあとにします。



けれど、彼女の無垢な魂と笑顔が  
人買い次郎兵衛の冷酷きわまりない心をもゆさぶり  
ついに月明かりの中、次郎兵衛に仏心をよびさまさせることとなり  
物語は感動的な終わりを迎えます。

春、せっかく気持ちの良いこの時期  
お彼岸の7日間だけでも笑顔で人の身になって思い行動することができればと  
願わずにはおれません。

# 大智寺だより

平成 29 年 弥生  
Vol.83

発行所

## 大智寺

岐阜市山県北野  
668-1

電話:058-229-1532

《Mail》

hybsr245@ybb.ne.jp

《ホームページ》

大智寺

検索

<http://www.daichi-ji.com>

当紙は、大智寺本堂及び墓地  
の水小屋にてご自由にお取り  
いただけます。  
又、当寺ホームページにて  
過去すべての紙面をご覧いた  
だけます。ご活用ください。

2月号発行部数  
200部

ご愛読  
ありがとうございます



### 東海環状自動車道 (水位・水質への影響調査)

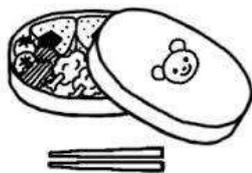


愛知県豊田市を起点に、瀬戸市、岐阜市大垣市を  
経て三重県四日市市に至る東海環状自動車道。  
そのトンネルが昨年大智寺の山にできたことで

山の水に影響が出ないか、大ヒノキへの影響はないか、ここ数年業者の方が観測を続けていました。  
その総括を2月にいただき、今年度末にて調査は終了となります。  
結果として、地下水位は降雨による変動のみが確認されており  
水質もコンクリート成分のpH、掘削による濁り、電気伝導度、いずれも植物生育良好水準でした。  
トンネル工事による影響は安定化しているとのことで終了しました。  
長きにわたり調査していただき、業者の方にはお世話になりました。ありがとうございました。

### 報聖会 春の托鉢

この近辺では、浄土真宗、真言宗、曹洞宗など宗派をこえて三輪・藍川地区の寺院が集まり、  
報聖会（ほうしょうかい）という名のもと一緒に仏教活動をしています。  
今月29日30日31日の三日間、この報聖会の活動として春の托鉢を行います。  
大智寺周辺の托鉢は3月31日（金曜日）を予定しています。



今回の托鉢で集まった浄財は、歳末たすけあい募金や  
檀信徒大会に使わせていただきます。  
托鉢は、数人ずつ分かれて行います。  
どうぞよろしくお願いいたします。

～ 他家の法要に出る機会の少ない奥様のため 若い世代のために ～  
(実際にお寺にご相談いただいたものから抜粋)



### お寺のこと、仏壇のこと、法要のこと etc わからないこと 質問帳 ③〇



「お坊さんってどうして玄関から入らないの？」

現在では、縁側から家に上がるのは僧侶だけになってしまいましたが、  
昔は、様々な場面で縁側から家に上がることがあったようです。  
お嫁に入る女性も、結婚式の時、玄関からではなく、縁側からその家に入ったといいます。

縁側は、今でこそベランダやバルコニーの一種のように捉えられていますが、  
本来は仏様、家庭のご先祖様がおいでになる仏間の出入り口です。  
仏間はその家庭の中心であり、最も大切な部屋です。  
その大切な部屋に直接縁側から入るといことは  
「縁側」の文字通り、その家族やご先祖様との縁が生まれることを意味していました。

この世との縁が尽きてその家を出ていく時も、やはり出棺の際には  
家の仏壇に「お世話になりました」とお礼申し上げて、玄関からではなく縁側から出ます。

縁側のある家も少なくなる中、玄関から入るのが当然と誰しも思うものですが  
お坊さんの世界では、まだまだ縁側は生きた出入り口です。

きっと古いお家の縁側は、  
たくさんの方と仏様とのご縁、ご先祖様とのご縁、ご家族の方とのご縁が結ばれ、深まってゆくのを  
ずっと見てきたのかもしれない。



日常を豊かに『発菩提心空拳章（通称：菩提和讃）』

お経のやさしい和訳（和讃）から  
毎日の生活を 心豊かに

大智寺檀信徒日課經典  
31 ページより

32

「壁も柱も戸障子も 獄卒の姿と見えければ」

今回は「壁に耳あり 障子に目あり」という言葉がぴったりの一節です。

その昔、薬師寺の高田光胤管主が用事で首相官邸を訪ねられた折、  
同席していた当時の官房長官、保利茂氏とこんなやりとりがあったそうです。

「宗教とは一言でいうとなんでしょか？」

「難しく言えばきりがないが、素朴に言えば“見てござる”ということになるのではないでしょか」

食べていくにも精一杯だった頃は、幼い我が子を養いきれず奉公に出すことは珍しくありませんでした。

もう自分の手が届かない、二度と会えないかもしれない、そんな状況下で  
母親はよく「見てござる」と書いた紙を子どもに握らせたそうです。

誰が見ていなくても、必ず誰かが見ている。

玄関で子供が靴をそろえる、台所でつまみ食いをしようとしてハッとやめる。

誰が見ているかわからなくても、それが仏や神かもしれないと思った時  
そこにおぼろげながら「宗教心」が生まれてきます。

明日自分が死んでも困らぬように親がまず子どもに残すべきは、信心の心ではないでしょか。

今更のつひじ

寒さもようやくやくゆるみ、春の訪れを感じる  
今日この頃、皆様お変わりありませんか？

さて今月は桃の節句を迎えます。お寺では  
数年前から山際に花桃の木を植えて育ててき  
ました。まだまだ小さい若木ですが、夢は大  
きく桃源郷のようになったらいいなと密かに  
思っています。とつなることやら（笑）

桃源郷といえは中国の「後漢書」費長房伝  
にこんなお話があります。昔、壺公という薬  
売りの老人がおり、毎日店を閉めると店頭  
にぶら下げてある古びた小さな壺の中にヒラリ  
と入って身を隠してしまします。このことは  
誰も知らなかったのに、ある日、費長房とい  
う役人に見つかり、一緒に連れて行ってほし  
いと頼まれます。さて、一緒に壺へ入ってみ  
るとそこには素晴らしい別世界が広がってお  
り、飲んだり食べたり楽しく数日過ごし現世  
へ帰ってみると、何十年もたったことな。

この物語を元にした「壺中日月長」という  
禅語がありますが、禅とは、小さな我が家の  
普段の生活を日々心新たに楽しむ工夫です。

俳句も、使い古された題材を飽きもせず使  
います。芭蕉が池に飛び込む蛙を最高に詠っ  
たから、もう蛙はやめようとはなりません。  
たとえ見飽きたような題材も必ず自分にしか  
ない発見や気付きがあり、再び新鮮な角度で  
楽しめるからではないでしょか。

桃の季節、そんな発見や気付きを楽しんで  
ヒラリと壺の中へ、桃源郷へ入行けるかしら。

～ シリーズ いますぐできる精進の味 ～

♪ お寺のぶきっちゃんでも簡単に作れた ヘルシーなお味 ♪

ふわふわふーんわり かぶら蒸し

- ① 蕪を1個すりおろしてザルで水気を切る。
- ② ボウルに卵白（卵1個分）入れてツノが立つまで泡立てる。
- ③ 卵白と蕪のすりおろしたものを混ぜて塩少々入れる。
- ④ 中に入れる具を整える。人参やゆり根、椎茸などなど。
- ⑤ 器に③を少々入れ具をのせて再び③をこんもりと盛り、蒸し器にかける。
- ⑥ 10分ほど蒸す間に、だし100ccとみりん小さじ1と薄口醤油小さじ半分、塩少々を鍋にかけ、水溶きかたくり粉を入れて餡を作り、蒸し上がった器に餡をかけて出来上がり。



蒸しものは、すぐ冷めないで重宝します。蕪もそろそろ名残となります。お寒い日どうぞ。

♪ 月に一度はお寺まいり ♪

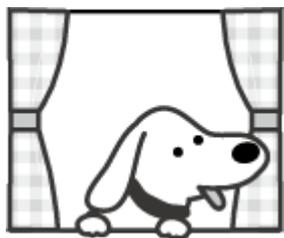
初心者 大歓迎  
東日本大震災物故者追善供養  
毎月 第四日曜日  
定例写経会

今月の日程

3月26日(日) 一回 500円  
(朝8時~9時) (内300円は義援金)  
要申込

2月写経会 備忘録

ようやく寒さもゆるみ、日も少しずつ長くなった2月の日曜日。今回は「蛇含草」という落語をご一緒に楽しみました。お餅をたらふく食べて気持ちが悪くなった主人公は、もうろうとしながら人間を溶かすといわれる蛇含草を食べついに「一無位真人あり」と極まるお話でした。落語ってなかなか深くておもしろいですね。



お釈迦様が生きていた頃  
あんな人、こんな人

第三話 「美男子も一皮むけば」  
アーナンダさん



アーナンダさんは、お釈迦様の説法を誰より多く聞いたとされる人でお釈迦様が亡くなった後、アーナンダさんの記憶を元にお経はつくられました。そんなアーナンダさんですが、とても美男子だったことでも知られています。

「和尚様、どうか私と結婚してください！」  
最近托鉢のたびにまとわりつく女の人が出て、アーナンダさんは修行になりません。困り果ててアーナンダさんはお釈迦様のそばに逃げ込みます。  
「お釈迦様、いつも托鉢のたびにつきまとう女が出て困っています。助けて下さい！」  
そこでお釈迦様は「私の後ろに隠れなさい」と言い、追いかけてきた女を迎えます。  
「おまえさんはアーナンダのどこに惚れたのかい？」  
「はい、あの澄んだ瞳が大好きです」  
「じゃあ、この瞳を持っていきなさい」とアーナンダさんの両目をくりぬいて差し出します。  
「きゃーこんな気持ち悪いものいりません、すらっとした鼻、かわいらしい唇が好き」  
その言葉通り、お釈迦様が耳もまつ毛も皮膚も差し出すうちにアーナンダさんはとうとうガイコツのようになってしまいました。ついに女は気味の悪いガイコツとの結婚をあきらめ退散したそう。

ご自宅で お寺で 市営斎場で 営む  
家族葬

ご家族・ご親族のみの家族葬をお考えの場合、ご自宅や市営斎場を会場に営むことができます。

また大智寺を会場にお使い頂くこともできますが、その場合、指定の葬儀社をお寺でご案内致します。必ず前もってご相談ください。

家族葬をご検討される場合は、葬儀社のこと、葬儀会場のことなど含めてまずはお寺までご相談ください。

完全個別永代供養墓

1区画：38万円～  
(墓石代金含む)

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りする方がいなくても、お寺がご供養させて頂くお墓です。

大智寺の永代供養墓は、ご夫婦・ご家族一緒にひとつのお墓にお眠りいただけるタイプです。永代にわたり、他の方のお骨と混じらないことから「完全個別永代供養墓」といいます。詳しくは、ご見学を含めてご説明しますので、ご予約の上 ご来山ください。